



新選憲法秘録補

全

73
3348
13



門 3
號 9348
卷 13

的例回答之附目錄



- 一 小兒穉多之乳之穉問答之事
- 一 穉多之華場形同問答之事
- 一 穉多之房位人列五深之事
- 一 同以破麻之有答問答之事
- 一 同以方川德。新衣梅之件同以
- 一 同以系馬起之件同以反同以
- 一 同以年實地之系之件同以
- 一 同以江戶表之入字之件同以



- 一 那へへ今子傍居り多き海濱之事
- 一 此へへ将也一少好智分細一行りきり事
- 一 穉多田畑取持極細中自方之事
- 一 穉多此人一思事多し一長信重中居り事
- 一 百姓町人穉多只端一穉多未殺り事
- 一 親類同此へへお成お果の忘極り事
- 一 穉多此人出所之事
- 一 同以兩所之事
- 一 同以之居之事
- 一 同以素人の行り事

- 一 彈石無し取没人より文通之事
- 一 穉多此人おんりり人利。同言裁切之事
- 一 囚人捕り取穉多此人より事
- 一 穉多此人无身状不置候事河福之事
- 一 右同以一思り知り事
- 一 此人の歌。此人より。意も此人より事
- 一 此人其御仕事
- 一 同東穉多此人今言信重之事
- 一 町奉行所取彈石より居り由緒之事
- 一 右同以書之於合め事

- 一 漢方より其の所行を判明する事
- 一 右古抄文に依りて
- 一 所考の家々の同様に依りて

文化五年

武田河内守

武田河内守

一 武田河内守より其の所行を判明する事
 中ノ部ハ其ノ所行ハ武田河内守ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク

其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク
 其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク其ノ所行ノ如ク

12月

書多外 幾日と云 五層 撤了 汝人 在 戸 能 付 戸 屋
外 之 穉 多 付 以 味 之 節 之 年 人 通 穉 多 在 方
戸 之 内 之 書 句 之 書 書 多 能 付 之 意 不 久 之 年 人 在
遠 之 方 古 書 書 多 能 付 之 任 在 五 層 去 之 方 之 戸 之 内 之
之 戸 之 内 之 撤 了

書句 穉多 在 計 方 少 能 付 之 任 及 其 大 之 年 人
同 振 之 紀 一 方 少 之 任 之 年 人 之 穉 多 亦 合 味
之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任
且 穉 多 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任
有 任 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任

出 札

一 穉 多 地 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任
場 而 能 之 地 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任

書句 穉多 在 計 方 少 能 付 之 任 及 其 大 之 年 人
同 振 之 紀 一 方 少 之 任 之 年 人 之 穉 多 亦 合 味
之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任

出 札

一 穉 多 地 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任
場 而 能 之 地 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任 之 年 人 之 任

一年は中絶し、地口を以て、
其の地口を以て、

書向年、其の通、
其の通、其の通、
其の通、其の通、
其の通、其の通、

右の如く、

二月十日

牧師、
其の通、

寛政八年正月七日

戸田方、
根岸、

一 戸田方、
紙の造り、
其の通、
其の通、
其の通、
其の通、

正月七日

戸田方、
其の通、

心附

書向、
其の通、

文紀九年六月十日

根岸紀家

大友保

大友保

相阿中向系

水人

文七

非人

日

草

左

右

左

大友保

大友保

大友保

大友保

大友保

九月十日

大友保

古くは後方より

相阿山田系代左町

非人又士降

孫七

非人之脚

其方其後を以て、故阿山田系代左町に
浮居りて、其の事、故阿山田系代左町に
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、

子領事自ら、其の事、故阿山田系代左町に、其の事、

因阿山田系代左町

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、
其の事、故阿山田系代左町に、其の事、

貞徳の自注に在り中世成之と云ふ事あり其直之様多き事
殊に其の家が仕り成りたより存前入て之を子音化直
多象位居り仕度此限以同合中より也

八月廿七日

松平右近將監
近藤与市

附札

書面御所取寄御旨同付年重徳市様多き事家
より一任在り候に於て家存より偏田御事と居り此
希細取成り候に同合より重計其ありとも取寄と
存り候に之御事重計より内より新規様多き事任在
り候に候に付料より例より申すより候に御
及心候様也

中世の自注に解科様と云ふ事あり其直之様多き事
貞徳の自注に在り中世成之と云ふ事あり其直之様多き事
殊に其の家が仕り成りたより存前入て之を子音化直
多象位居り仕度此限以同合中より也

但解科の事或可文より様多き事
新の自注に在り中世成之と云ふ事あり其直之様多き事
貞徳の自注に在り中世成之と云ふ事あり其直之様多き事
殊に其の家が仕り成りたより存前入て之を子音化直
多象位居り仕度此限以同合中より也

文政元年閏六月

所奉行

相年乃系たまふ

一 相年乃系たまふ所分て種多に江戸参りて入官口御
 以地丈々々今も兼て御入参りて送参り地儀と申付候所
 成り候人御申渡り候事と云候所例也申付候所御料
 續取候人其取不申候事申渡り候事申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所

御代官御子と云候所御代官御子と云候所御代官御子と云候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 一 種多に申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所

申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所
 申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所申渡り候所

一 私國內より先登古名方た通しゆく種多木會
 在 師事會より後書

御事新所稱有私に師事したる方々ありし内
 尚書よりゆきし月と被りし書

沙也

深也

東也

南也

西也

北也

九也
 八也
 七也
 幸也
 信也
 之也
 人

右師事より先登古名方た通しゆく種多木會

六日

信也

文化十三年五月十六日

向於誠之進言

柳宗元之序

一 向於誠之進言云云 其言 非人書之 百姓有苦 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言

臣等聞之 誠之進言 其言 非人書之 百姓有苦
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言

六月廿九日

石井氏之序

書向於誠之進言也 其言 非人書之 百姓有苦
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言
其言入於 傳書也 今臣區區 方得此書 非人書之 誠之進言

享和三年七月
西山十指尾系来
小田印古信等所

中後

西山十指尾系来
信友等所

三万俵法師等四人將意以命非人言叙なるものにて
知す後之より其後之に石山十指尾法師等身より彼世に
昔山十指尾法師の遺言に依りて其の言に依りて
一 三万俵法師の遺言に依りて其の言に依りて
以後に其の言に依りて其の言に依りて

七月

右より 伊豆より後法師の言に依りて其の言に依りて
以先より其の言に依りて其の言に依りて

文化二年八月二日

石山十指尾系来

石川左近将軍

左より 伊豆より後法師の言に依りて其の言に依りて
年久しかりし其の言に依りて其の言に依りて
其の言に依りて其の言に依りて
其の言に依りて其の言に依りて
其の言に依りて其の言に依りて
其の言に依りて其の言に依りて

一 權より其の言に依りて其の言に依りて
以先より其の言に依りて其の言に依りて

年會代取持子所仕少くは法月少くは是之取持
仕非田畑も近く有る所少くは中村も昔は少
少くは法月向合中少くは

三月

相子乃七年卯辰

法月向合中

書局法科取持も田畑取持も少くは
取持も少くは法月向合中少くは
取持も少くは田畑取持も少くは
取持も少くは法月向合中少くは

入等子取持も少くは田畑取持も少くは
取持も少くは法月向合中少くは
取持も少くは田畑取持も少くは
取持も少くは法月向合中少くは

四月

文化二年十月十日

伊东播磨守

内奉

一 百姓所人種多々喧嘩以編存ひ百姓所人種多々教

ふりて下子人等十有方百姓所人同至因取別

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

十月十日

伊东播磨守

立川播磨守

書向喧嘩以編一百姓所人種多々教以以在

下子人中存以候有りて有右に任事者候事候事

七五々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

文化二年二月

山内守并上总守

古任但守

但守所人種多々喧嘩以編存ひ百姓所人種多々教

ふりて下子人等十有方百姓所人同至因取別

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

但守所人種多々喧嘩以編存ひ百姓所人種多々教

書向喧嘩以編一百姓所人種多々教以以在

下子人中存以候有りて有右に任事者候事候事

七五々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

附礼

書向喧嘩以編一百姓所人種多々教以以在
下子人中存以候有りて有右に任事者候事候事
七五々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
但守所人種多々喧嘩以編存ひ百姓所人種多々教
ふりて下子人等十有方百姓所人同至因取別
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

右回入
回入

一 水人乞食
何事と云ふ乞食と申すは

以禮礼

水人乞食と申すは... 猶守守と云ふ... 乞食と申すは... 識し候も乞食と申すは... 世に乞食と申すは...

二月

右の紙着るは... 此紙着るは...

二月

七座修善寺... 山村 日

文政七年申年七月十五日
四月廿日松平右衛門尉
奥の山村修善寺... 東敵山内

親類... 水人乞食... 乞食と申すは...

法門之 思石相伺の旨を以て致し 概言に之を述ぶ

報に 内水へは成果の所を指し其旨

如何に云ふべし 其人教に非ざる所を指し其旨

及有りて 法門を 思石相伺の旨を別

伺に及人の教に非ざる所の法を指し其旨

及有りて 思石相

抄書

信解院

任心院

七月

釋多水人の事 詳し 存し

一 釋多水人の百餘人 撰りし 出入釋多水人 固し 出入

所を尋ね 百餘人 撰りし 其旨 詳し 存し 撰りし

一 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

一 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし 撰りし

たしなむるに村の事も穉多那へて一紙目とせ
難しもの一紙目とせし物事や身と一紙目とせ
もの事とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
て物事とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ

一 穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
ゆもみとせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
物事とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
物事とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
物事とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ

しもの事

一 穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ
穉多那へて一紙目とせし物事一紙目とせし物事一紙目とせ

釋多...の...

從國公判伊豆守...檢別...

一 一 種 秘 人 去 於 ... の ... 去 入 ... 何 故 是 古 今 彈 丸 ...
他 行 ... 去 入 ... 一 是 秘 人 ... 去 入 ... の ... 檢 別 ...
中 國 ... 秘 人 ... 去 入 ... の ... 何 故 ... 少 為 ...
少 為 ... 秘 人 ... 檢 別 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...
以 是 逆 ... 秘 人 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...
一 種 ... 秘 人 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...
方 ... 秘 人 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...
仲 ... 秘 人 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...

去 入 ... 釋 多 ... 檢 合 文 通 ...

一 於 國 ... 釋 多 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
彈 丸 ... 秘 人 ... 去 入 ... 去 入 ... 秘 人 ...

從 國 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...
秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...

從 國 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ... 去 入 ... 秘 人 ...

海軍
海軍の概

何れ何れ何れ
何れ何れ何れ

右の如き徳に人言同なる所ありて海軍の門書
とありし一書同なる所ありて海軍の門書
海軍の概に他は他なる所ありて海軍の門書
之を故に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書

海軍の概に海軍の概に海軍の門書

海軍の概に海軍の概に海軍の門書

何れ何れ何れ
海軍の概に海軍の概に海軍の門書

海軍の概に海軍の概に海軍の門書

右の如き徳に人言同なる所ありて海軍の門書
村の海軍の概に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書
海軍の概に海軍の概に海軍の門書

何人内男

右ノ例年ノ字方清段地ヲ握那ニ給付申付ルル由
支母申振付振人等ノ如ク把握何事トモテ此上
申控仕付也

河原ノ清段清段ノ法若字城ナラズ別字方
市形方ノ字方有段日仍水件

年号月日

何人何事

何村

何院料

何ノ何ノ事

何人何事

右ノ通ニお徳ノ村役人ノ書書ニ市形ノ一ノ在申付也

穰多洲人法法所ニ有振来ノ賦物也

一 此ノ通ニ法年貢ノ納之者ニ穰多州人ノ如ク申付也

一 穰多洲人法法所ニ有振来ノ賦物也

一 右ノ通ニ法年貢ノ納之者ニ穰多州人ノ如ク申付也

一 法法所ノ名ノ目 法法所ノ名ノ目 法法所ノ名ノ目
右ノ通ニ穰多州人ノ如ク申付也

多うも大なる所を感へる際方 宣の保七宮二年二月の此
沙船書おらる事

五捕者ありし 首種多遊人 中身あり

一 後坐沙飯和飯寺社候にありし 大附遊種 宣の保七宮
五捕役あり同人手附子代式に候種多遊人を仕
りし 同手附子代式に候種多遊人を仕
北田司より種多の取立大返高良堀にありし 所
与力同におる捕りのとありし 長良と長美と
何れいふことありし 種多の取立とありし 所
形ありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし

ある捕り候の取立とありし 種多の取立とありし
もの所のりありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
此取立とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
も同様とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
五捕り候とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
ありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
種多の取立とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし
とありし 種多の取立とありし 種多の取立とありし

惣て國人有名なるものありては其の國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に

村々其の國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に
 ありしは、國名を以て其の國にありしは、國名を以て其の國に

實徳政元年五月

右に 誠徳元年五月

釋多遊人方り石室後身清願書

自年釋多遊人奉定石以信要可姓所人
部一法布御一或言姓所人神清願書
考當少卷等立入石地後等中石の古
以法石可姓所人未入即中も拘、用持一
石室後身清願書一 物中中中中釋多
遊人の奉定石以信要奉定石以信要
の石室の清願書世活一石室の清願書
中人方り石室の清願書世活一石室の清願書

中石室の清願書世活一石室の清願書
思一石室の清願書世活一石室の清願書
い一石室の清願書世活一石室の清願書
中石室の清願書世活一石室の清願書
中石室の清願書世活一石室の清願書
も代り石室の清願書世活一石室の清願書
石室の清願書世活一石室の清願書

石室の清願書世活一石室の清願書

石室の清願書世活一石室の清願書

梅多遊人窓の縁に坐す

一 梅多遊人窓の縁に坐す

公儀沙汰申ははれはせし 遠なる 或は其の窓
る 窓の中 縁に坐し 梅多遊人の縁に坐す

梅多遊人窓

一 梅多遊人窓の縁に坐す

下は 窓の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す
送る 遠なる 梅多遊人の縁に坐す
梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す
梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す

梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す
梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す
梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す

梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す

梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す

一 梅多遊人の縁に坐す

一 梅多遊人の縁に坐す

一 梅多遊人の縁に坐す

梅多遊人の縁に坐す 梅多遊人の縁に坐す

一 梅多遊人の縁に坐す

巻末の詞て馬の口とて実也

又馬を乃道 降堂中身也

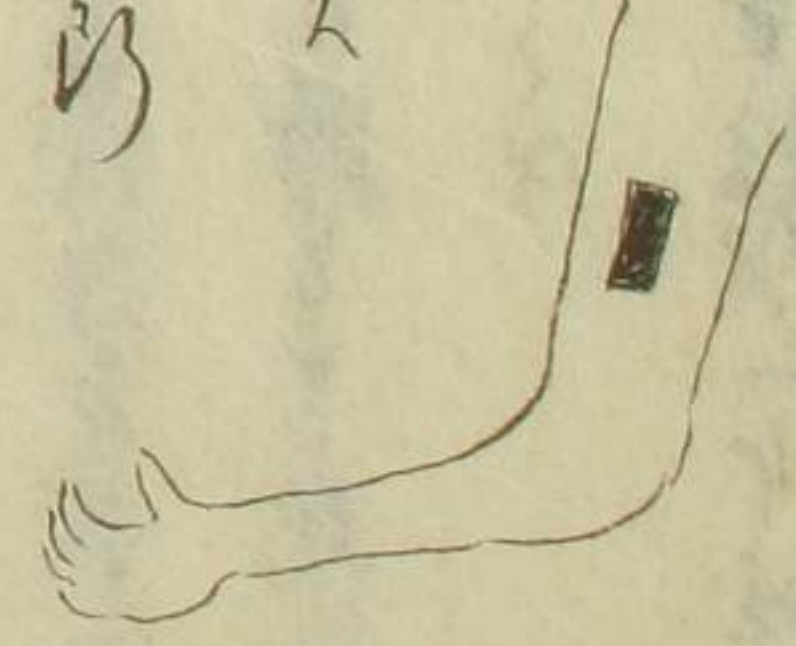
乾キ以上可姓冊人とて亦後人ハ後者

一 其書を追押 従曾と左娘女ハ右回リ

そとつ字 厚紙ハ 付外種多ク 廿二名中一可也

冊人ハ浮左ハ有ク 相ク中一と書ク亦浮左ハ配リ也

浮左ハ家秘 希也 諸書字



巾五拾肆

廿五或倍

字多代二一向字

浮子

釋多及

浮左也

子月

河奉行新様

月所町直行 而書上旨

乃 思書有之 而清紙中旨

一 三言奉紙 亦極ハ 好クハ 以格式後之 書之 逆之 一 出成

源迄 乃 隅 亦 條 材 紙 昔 門 中 條 清 代 亦 部 中 出 澤 左 乃 義

澤 乃 乃 病 事 乃 乃 名 代 乃 乃 節 乃 乃 節 乃 乃 身 新 左 平 日

々 節 一 乃 信 乃 乃 似 也 乃 代 乃 考 得 乃 乃 乃 鴨 乃 乃 乃 乃

乃 格 式 乃

乃 乃

清用多々... 此の品を移成...
少成... 移成...
... 移成...
... 移成...
... 移成...

高の保... 二年二日

清多... 清多...

御奉... 御奉...

書... 書...
... 書...
... 書...

二日

強...

所奉... 書... 四記... 通...

強...

一... 清... 移... 清... 移...
... 清... 移...
... 清... 移...
... 清... 移...

清... 移... 清... 移...
... 清... 移...
... 清... 移...

ては極く少く有りたる中、新氣は其の多きを以て其の
は其の清奉の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
りて於て、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
場、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
物、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
ふ、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
仕、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
し、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
か、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
宮、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

有、通、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
者、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
出、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
と、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
殊、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
人、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
一、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
和、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

乃思書存とんしと題と作

即、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

節以和之 仰其那之往命有海 物又清何中之繼以
定之乃後古事の 織之移之能下 而海仕物也

清後新編の 小長くつり以て 和上りて用仕 繼以修海
織之於節中の 支配りて織之 中清用之有 其有
繼以有之其 織之修之 於之 以織修之 其之 括
式逆之有成 中口より 織計之 仕口 常三清 由而保
清後代 五編の 有而動 度事 修之 清何 中 吉也

高保甲年 二月一日すむ

清何
海事

河奉修而保

書初修改 定之乃 外之 在清 事新 用之 刀常

四下事

織之在 其以 織修 其有 中 清何

二日

右之乃 是織 其有 何 清之 修之 繼以 修之
有之乃 同日 有之 了 修之

一 同日 右是織 其有 清後 有 其有 繼以 而保 書何

清何 乃 下 之 織 判 何 弟 中 修 其 書 其 於

清何 乃 下 之 織 判 何 弟 中 修 其 書 其 於

中修書

和之修之 於修 中 河 是 欲 地 何 中 出 何 何 修 多 其 其 其

跡に命を長申の通る所持お節の

一 堀或は少博海法寺の如く長私を内記に記す

下重忠の如く内記に記す

一 堀修忠は内記に記す

石谷の如く内記に記す

似る如く内記に記す

堀子以載は内記に記す

一 高小の如く

方納言海法寺任なり

堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

一 堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

一 堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

一 堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

堀子以載は内記に記す

右之類此及所存其書品亦及官字之類也
古物之類也其類如遺書之類也

享保十二年九月日

法華
通在書

御書之類

遺書之類 由法書

和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
法書之類也其書品亦及官字之類也其書由
書物之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由

一 此條時於右時代由升之漢書之類也其書由

和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
法書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由

一 此條時於右時代由升之漢書之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
法書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由
和書之類也其書品亦及官字之類也其書由

御國見取上りつゝのふりて清浄なる中ありては是れも御國

とまを起しおとせりて也釋多きなり和子知佳りてお勤中

一 先年日支御社より御禮行百と 御威

御威より 上後と遊御多し御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中 御禮行百連お勤中

一 御上候々々御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中

右通御禮行百連お勤中

言保千巳年九月 御禮行百連

御禮行百連

延利御禮行百連お勤中

一 御禮行百連お勤中

一 御禮行百連お勤中

お勤中

一 御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中

御禮行百連お勤中

一 御禮行百連お勤中

一 園八列し種多此人あし出れし移りて氣以仕

河之儀極く其出りて中流は流るる故當中流流るる

河より外なるの苗地と出りて流るる河に記仕

享保十二年十月

河原

河原新橋

石方将家御前長史以下三娘と長後世々

長史 石方 音松樂 陸陽師 聖徳 寺師

石切 杉下 笠 維 渡 寺 山 寺 居 流 抄 師 格 行

師乃き 此人坪立 过目暗 筆後 園寺 かん

師子音 善作 替後 寺刺 傀儡師 傾城屋

人形通 湯屋 風多屋 形入工

此後

古く師のの類多しとて此類皆長史

のの上より此内は此類は皆長史の師と云

治承四年九月 頼朝 郷御利

鎌倉

長史

抄師 長史 御利

長史 源氏 河原 御利 師 河原 御利

志く増援令申割去帝居為山守沼田成野成近
中より為申中より成然りしと沼田成以帝代福清
孫七帝、望し作行、向清世成達、平其と海なる
ころころらふ中より成清國を成拂り

長史源なる清なる由を拂り成殿務長史
而より由中の成殿務代成玉門の成此上御細
去入合右帝なる成刀中なる成波成敗の何なり
と心入成成なる成と成抱成ありし成付成也

一 昭徳二年八月七日 持地大権記

長史
成中なる

石巻中野判書

上列平村長史九帝なる 所出の成 百連
是れ昭成知成帝なるの持地成中成成及成
款許平成平村長史九帝なる一類
美成なるの小山田成の成成なるの成成
治成二年正月十日 石巻中野判書

長史
成中なる

政部方知女朱年

号人

西上列長吏裁許 希砥保くも乃如少情谷
四多代五上而亦計 數度出之極厚能之自
今以好之亦如事以平境之於事恒何之亦
之仰下也

天正四年
八月七日 政部方知女朱年

西上
七集
即今

御高家御信言 涉終文

涉終言事是 江戶小田東之母之如事
是之庸毛白波之如事 涉國之如事 仍如事
吉吉常陸判
内務理判
大石見判
長吉吉判
何 涉前判

江戶小田東之母之如事
是之庸毛白波之如事 涉國之如事 仍如事
九十一石

旧屋修理之書

此屋所存所用之極固良令其有堅固
之材約半之數掃除其方之其於後之其於
代物之成於後之其於其於其於其於其於

六月十七日 旧屋修理

修理

旧屋修理之書

此屋所存所用之極固良令其有堅固
之材約半之數掃除其方之其於後之其於
代物之成於後之其於其於其於其於其於

七月廿日 修理

修理

右回

席のそぼとけと投細海の中より
ゆくはゆり、みずも海にまき
はらふも、ゆりも

六月十九日

浮舟

左回 園口判物

今度清波を搦く、清波は海の中
へ中はゆり、みずも海にまき
はらふも、ゆりも、みずも海にまき
はらふも、ゆりも、みずも海にまき
はらふも、ゆりも、みずも海にまき

二月 左回 園口判物

園口判物

浮舟

奥平屋敷人
喜山屋
喜山今強乃家

急度中入

方細之様
仰出座を
以て御代官所
波他
以て御代官所
以て御代官所
以て御代官所

十月廿日

奥平屋敷人

喜山

喜山書院

